

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
350003	X-21-B-3-350003	2	後期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	専門	選択	1年
授業科目				【3年次生以上】国際学部国際文化学科	専門	選択	1年
担当教員				【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	専門	選択	1年
東アジア関係論	佐々木 寛			【1-3年次生】経営情報学部経営学科	×	×	×
				【1-3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
		【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		

授業目的

本科目は、「環日本海交流論」とともに、東アジアの各国地域・歴史研究を横断的に理解する知的枠組みを模索する。「環日本海交流論」が〈海〉をめぐる自治体や市民の交流史に重きを置くとすれば、「東アジア関係論」では、それに加え東アジア国際政治史などのより高次元次元をも含むより包括的な視点に基づく。概して、「東アジア」の近代史は、暴力とディスコミュニケーションに彩られた不幸なものであったといえるかもしれないが、近年、主に経済分野で多くの協力関係が模索され、「東アジア共同体」構想も浮上してきた。歴史認識問題や冷戦期米国の東アジア政策、核問題など、「東アジア」に根雪のように残る障害をしっかりと見つめると同時に、新たな地域主義や地域協力の胎動も確実にききとげたい。本講の最終的な目的は、「東アジア〈共生〉の条件」がどこにあるのかを探ることにある。揺れ動く東アジア情勢の中で、一人の市民としてそれをどう理解し、行動するべきなのか、具体的な素材を通じて考えたい。必要に応じて、学生同士のディスカッションも行う。

各回の授業内容

<p>第1回 【授】 「東アジア」とは何か ― 歴史編 【前・後】 授業で紹介される文献や資料を読んでおく（2時間程度）</p> <p>第2回 【授】 「東アジア」とは何か ― 理論編 【前・後】 授業で紹介される文献や資料を読んでおく（2時間程度）</p> <p>第3回 【授】 歴史認識問題と「東アジア」 ① 【前・後】 授業で紹介される文献や資料を読んでおく（2時間程度）</p> <p>第4回 【授】 歴史認識問題と「東アジア」 ② 【前・後】 授業で紹介される文献や資料を読んでおく（2時間程度）</p> <p>第5回 【授】 分断国家と「東アジア」 ① 【前・後】 授業で紹介される文献や資料を読んでおく（2時間程度）</p> <p>第6回 【授】 分断国家と「東アジア」 ② 【前・後】 授業で紹介される文献や資料を読んでおく（2時間程度）</p> <p>第7回 【授】 アメリカと「東アジア」 ① 【前・後】 授業で紹介される文献や資料を読んでおく（2時間程度）</p> <p>第8回 【授】 アメリカと「東アジア」 ② 【前・後】 授業で紹介される文献や資料を読んでおく（2時間程度）</p>	<p>第9回 【授】 リスク共同体としての「東アジア」 【前・後】 授業で紹介される文献や資料を読んでおく</p> <p>第10回 【授】 エネルギー問題と「東アジア」 【前・後】 授業で紹介される文献や資料を読んでおく（2時間程度）</p> <p>第11回 【授】 経済共同体としての「東アジア」 【前・後】 授業で紹介される文献や資料を読んでおく（2時間程度）</p> <p>第12回 【授】 「東アジア」共生のために ① 【前・後】 授業で紹介される文献や資料を読んでおく（2時間程度）</p> <p>第13回 【授】 「東アジア」共生のために ② 【前・後】 授業で紹介される文献や資料を読んでおく（2時間程度）</p> <p>第14回 【授】 「東アジア」共生のために ③ 【前・後】 授業で紹介される文献や資料を読んでおく（2時間程度）</p> <p>第15回 【授】 ※+1回分は、資料映像の鑑賞に充てる。 【前・後】 授業で紹介される文献や資料を読んでおく（2時間程度）</p> <p>第16回</p>
---	---

成績評価方法

しばしば講義の最後に、コメントカード（質問やコメント、感想を書いてもらう）を作成してもらい、それらは講義の改善に役立ただけでなく、受講者の参加姿勢を見る材料とする。基本的に最終筆記試験の成績によりすべての評価を決定し、出席も重視しないが、このコメントカードの内容は成績に加味する。また、試験は、個別的な知識よりはそれをもとにした思考力（学期中にどれだけ考えたか）を重視した問題を出题する。なお、学期末試験で最優秀のものは、他の学生諸君にも参考となるため、本人の了解を得て公表する。

教科書・参考書

教科書は、佐々木寛編『東アジア〈共生〉の条件』（世織書房）。  
参考書は、授業中、それぞれのサブテーマに即して随時指定する。必読参考文献の一例として、佐々木寛編『東アジア〈共生〉の条件』（世織書房）、五十嵐暁郎・佐々木寛・高原明生編『東アジア安全保障の新展開』（明石書店）を挙げておく。

受講に当たっての留意事項

内容的に高度なものも含むので、知的好奇心が高い学生を望む。ロ・中・韓・米各地域・歴史研究の基礎的な知識が前提となる。「平和学」「国際政治学」をすでに受講していることが望ましい。

実務経験のある教員による授業科目有無 ×	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施 ○
-------------------------	----------------	---

学習到達目標

受講者がそれぞれ、国境を越えて揺れ動く東アジア情勢に多角的な視点を持てるようになること。

JABEE

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習